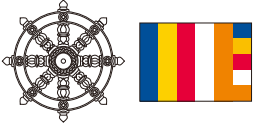


ZENBUTSU



全仏

No.
541

仏暦2551年 8月
[2008年]



托鉢僧への喜捨(中部タイの山村) 撮影 田村 仁氏

目次

論点・視点 ⑱ 「仏教の死生観」 青木新門

加盟団体をゆく 第17回 真言律宗
理事会・評議員会・参与会開催報告

大蔵経データベース完成表彰

世界宗教者会議開催

韓日交流一心のかけ橋 ①

第24回WFB日本大会ロゴマーク決定

全日本仏教会救援基金寄託に対し、日本UNHCR協会から感謝状進呈

論点・視点

⑬

仏教の死生観

—納棺夫の視点から—

詩人・作家 青木 新門

私は挫折を繰り返した果てに、ひよんなことからアルバイトのつもりで冠婚葬祭の会社に就職し、葬儀に携わっているうちに気がついたら納棺専従社員となっていた。

当時（昭和四十年代）は、死者を納棺に納める湯灌・納棺の作業は近親者が行なうのが慣わしであった。

「納棺夫」という言葉が日本語に無いのも、古来それを生業としていた者がいなかったということであろう。

湯灌といっても死者を湯浴みさせるわけではなく、死体をアルコールで拭き、仏衣と称する白衣を着せ、髪や顔を整え、手を結んで数珠を持たせ、お棺に納めるまでの一連の作業である。最初は死体に対する嫌悪感と緊張感で無我夢中で行なっていた

が、やがて毎日死者に接しているうちに「人は死んだらどこへ行くのだろうか」と思うようになっていた。

特にそのことを意識するようになったのは、納棺時に仏衣の外に手甲脚絆や足袋などをつけて、六文銭が印刷された紙が入っている頭陀袋などを首にかけていたりしていたら「そんなものはつけなくてもいい」と浄土真宗の僧侶に怒鳴られた。当時仏教の知識は皆無だった私は、つけなくてもいいのならと以後つけないで済ましていたら「なぜつけないのか」と他宗の僧侶に怒鳴られた。宗派によって死後の行き方が違うことを初めて知った。

葬式の現場でも「みほとけにいだかれて」と送り出していながら、弔辞では「天国で安らかにお眠りくだ

さい」と言い、喪主挨拶では「父も草葉の陰でさぞ喜んでいることでしょう」と言ったりしている。

思うに、我が国の葬送儀礼様式や作法のほとんどは、死んでも死者の霊がさまようことを前提に成り立っているようである。

死者の枕元の一本線香は、なぜ二本ではいけないのかと問えば、霊が迷うからという答えが返ってきた。

位牌はなぜ必要なのかと問えば、霊の止まり木だという。頭陀袋も手甲脚絆も杖も草鞋も、とほとほと中有をさまよう巡礼の姿である。葬式に導師が登場するのも、さまよっている死者（靈魂）に引導を渡すためだという。引導を渡されても成仏したのかどうかわからないから、何十年も追善供養をするのだろう。いつまでたってもどうなったのかわからない。私は戸惑いながらも、人は死んだらほんとうはどうなるのだろうと真剣に考えながら毎日死体に接していた。そんなある日、宮沢賢治の不思議な詩に出遇った。

だめでせう
とまりませんな

がぶがぶ湧いてゐるですからな
ゆうべからねむらず血も出つづけ
なもんですから

そらは青くしんしんとして
どうもまもなく死にそうです

—中略

あなたは医学会の帰りか何かは知りませんが

黒いフロックコートを召して
こんなに本気でいろいろ手あても
していただければ

これで死んでもまずは文句はあり
ません
血がでていにかかわらず

こんなにのんきで苦しくないのは
魂魄なかばからだをはなれたので
すかな

ただどうも血のために
それを云えないのがひどいです

あなたの方からみたらずるぶんさ
んたんたるけしきでせうが
わたしから見えるのは

やっぱりきれいな青そらと
すきとおった風ばかりです

この詩は宮沢賢治が、殺生戒を守って極端な菜食主義を断行しているうちに結核に罹り壊血病を併発した

高熱の中での作品である。話すことも書くこともできなかつたので「眼にて云ふ」と題されている。

私はこの詩に出遇って、何だ、そういうことだったのか、と思った。

惨憺たる景色の中でわいわい騒いでいるのは生者たちで、その頃死者はすきとおった世界にいるのだ。そう思うと死んだらどうなるのだろうか。そう思っていた問いに、確かなヒントをもらったような気がした。ちょうどその頃、富山県礪波市の井村和清という三十二歳で癌で亡くなった医師の闘病日記に出遇った。その中にこんな文章がある。

「癌が肺へ転移を知った時、覚悟はしていたものの、私の背中は一瞬凍りました。その転移巣はひとつやふたつではないのです。レントゲン室を出るとき、私は決心しました。歩けるところまで歩いていこう。その日の夕暮れ、アパートの駐車場に車を止めながら私は不思議な光景を見ていました。世の中がとてつもないのです。スーパ―へ来る買物客が輝いて見える。走り回る子供たちが輝いて見える。犬が、垂れはじめた稲穂が雑草が、電柱が、小石までが

輝いて見えるのです。アパートへ戻って見た妻も、手をあわせたいほど尊くみえました」

私は、この文章に出遇って宮沢賢治の詩『眼にて云ふ』が臨死体験による真実であることを確信した。そして生と死が限りなく近づくか、生きていながら死を百パーセント受け入れたとき、即ち生死一如の状態になったとき、あらゆるものが差別なく輝いて見えるのではないだろうかと思つた。すると今まで死体に対して抱いていた嫌悪感がなくなり、むしろ死者は安らかで美しくいと思えるようになっていた。時には死者の

柔和な顔に微光が漂っているように感じることさえあつた。そんな微光に導かれるように仏教書を読むようになっていた。いろいろな仏教に関する書物を読むうちに、あの不思議な現象は仏性のはたらきだったのだと確信するようになっていた。やがて六祖慧能がいう「仏性常清浄、何処有塵埃」も、道元の「尽界はすべて客塵なし」も、親鸞が「清浄光明ならびなし、遇斯光のゆえなれば」と和讃するのも、それは行き先を指し示しておられるのであつたと気づいた。

物事は行き先があつて行き方が決まる。行き先(目的)が定まらないのに行き方(手段)を検討していても無意味であらう。

葬式の形骸化が叫ばれて久しい。しかし話題になる度に行き方の無意味な検討会で終わってしまう。蓮如が「後生の一大事」と言つたように、行き先が大事なのである。行き先は涅槃であるが、たとえ真証の証に近づくことはできなくても、宮沢賢治が手帳に書き残した自戒の詩

「雨ニモマケズ」にある「サウイウモノニワタシハナリタイ」と願う道心、即ち発菩提心がなくてはならない。

最澄の「山家学生式」には「国の宝とは何ものぞ、宝とは道心なり。

道心あるものを名づけて国宝と為す。故に古人曰く径寸十枚、是れ国宝に非ず、一隅を照らす、此れ即ち国宝なり」とある。

私が今日まで葬式の現場で見てきたのは、浄土往生を説きながら浄土に生まれたいと思う欲生もない僧や成仏を説きながら成仏したいと願う

道心もない僧が、死者に法名や戒名を授け葬式の導師を勤めている径寸十枚に惑う無残な姿であつた。そんな僧に嫌気がさし無宗教で葬送を行なう人々も、生死を超える安心など望むべきもなく「千の風」などに癒しを求めている。

仏教離れを云々する前に、大乘仏教の本然に立ち返り真実の死生観に基づく行き先を指し示すことが大事なのではないだろうか。

青木新門(あおき しんもん)氏
1937年 富山県生まれ。早稲田大学中退後、富山市で飲食店を経営する傍ら文学を志す
1973年 冠婚葬祭会社(現オークス)に入社
1993年 葬式の現場での体験を「納棺夫日記」として著しベストセラーとなり全国的に注目される。
日本文芸家協会会員

著書 「納棺夫日記」小説「柿の炎」随筆集「木漏れ日の風景」詩集「雪道」童話「つららの坊や」など。
なお、「納棺夫日記」はアメリカで「Coffin man」と題されて英訳出版されている

※次回は、十一月に開催されますWBFB世界仏教徒会議日本大会の特集を掲載いたします。

加盟団体をゆく

《第十七回》真言律宗

今回の「加盟団体をゆく」は奈

良県の真言律宗を訪ね、大矢実圓管長（大本山寶山寺住職）にお話を伺いました。寶山寺のある生駒山に登る生駒ケーブルは、日本で最初、大正七年に開業したケーブルカーであります。聖天信仰の霊場として名高い歴史有る寺院にて、お話を伺いました。



真言律宗管長
総本山西大寺長老 大矢実圓師

―宗派の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点に

ついてお聞かせ下さい。

真言律宗総本山西大寺は、興正菩薩叡尊上人を中興の祖として仰ぎ、その教学を受け継いで現代に伝える事を最大の目標にしております。叡尊上人は数多くの慈善事業を興し、貧民や病人の救済に奔走する傍ら、戒律の復興に努め万人に戒を授けました。

真言宗が強く説く曼陀羅の教えに立脚し「生かせ命」というスローガンに基づき全ての物の「いのち」を活かす、不殺生戒を大切に思い慈善活動を宣布していくことが当宗派の根本教理と思っております。

宗派の宣揚にイベント等の開催も時には必要かもしれません。

しかし、伝灯を護持していくことこそ大変に重要な我々に課せられた責務であり、宗祖の精神を堅持し愛宗護法の精神で向後に精進努力していくことが最も大事なこ



西大寺：四王堂
創建期の由緒を伝える堂

とと憶念しております。

西大寺を「戒律復興の本山」と考え、一昨年から要請のあった末寺に出向き、在家の信者に戒を授ける「授戒会」を復活させました。平成の戒律復興運動と位置付けております。

宗派僧侶への研修や、全国各地の人を招いて開催する戒律文化講座等の活動を通じ、一人でも多くの方に授戒を受けて頂くよう進めております。

生命軽視の現代の風潮は誰しも憂慮しております。戒律を学ぶことで命が大切である事を徹底して教えてゆく。それらを通じて宗教教育の大切さが大衆に根付いてい

くものと思います。

―昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。

無戒（戒律を持っていない、知らないこと）は破戒（戒律を破ること）より悪いと言います。戒を破ってしまうなら、どちらにせよ同じではないかと思われるかもしれませんが、無戒はなぜ悪いからわからないため、反省も無ければためらいもありません。

昨今の社会問題は、まさしくこの「現代人の無戒」と呼べる状態が招いたものでしょう。殺人にも盗みにも何のためらいも反省も無いため、凶悪かつ悲惨な事件が続発しているのが実情です。

これは、教育の問題でもあります。宗教心を一切教えずに、道徳や倫理だけを教えているのが現代の教育です。宗教心を教えていないのです。道徳や倫理を教えても、根本となる精神が構築されておられません。どうして道徳や倫理を守らねばならないのか？という理由付けがなされてなければ、道

徳教育も何の意味もなさないでしょう。宗教教育は非常に重要であると考えています。

仏教には十善戒の基本的な戒律がありますが、十とはいわず、その一つでも守り通せたなら全てに通じると思います。不妄語（ふもうご・嘘をつかないこと）一つでも、今の世間に生きていて守り通す事は非常に難しいことです。戒律を持てば、万一破ってしまっただとしても懺悔の心を持つことができます。それは非常に重要な事であり、反省した後、また一切の悪を断ずる意識が芽生えてまいります。

現代社会に広がっている、不安や孤独感・喪失感は、政策である程度カバーできても、それだけで全て消えることはありません。そうした現代的な問題に取り組み、自覚と実践、心の安心を与えていく精神的ケアが必要だと思えます。

―現在の仏教界と今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

叡尊上人の時代は末法の世と言われ、一部の貴族が平穏な暮らしをする一方で、庶民は困窮し、僧侶は邪道に落ちるものが多い時代であったと言います。

現代の日本仏教も、ともすれば伽藍を重視するあまり「人心を忘れた」と海外から批判される事もあります。また、日本は無戒の国であると揶揄される事もあり、これは大変な問題だと思っております。平成の戒律復興運動もこうした批判への答えの一つになれば、と期待しております。

現代には、その僧侶の生き様を見て、大衆が「奉仕をしよう」という気持ちに自然になるような人が少なくなっているように思えます。宗派の違いがあるにせよ、世間の人々から破戒坊主と呼ばれるのは僧侶として非常に恥ずべき事であり、僧侶自身が宗祖の精神に立脚し自判心の涵養が大事なことと思えます。

大衆から支持される僧侶の理想としては、その僧侶の所作（諸々の動作）に惚れ込んでしまうような僧侶が理想ではないでしょう

か。そうしたものを身につけるには、大衆の中に飛び込み、下座行に徹し、お勤めを熱心に行う事が第一です。大衆の目線に立ち接していくことが肝要であり、上からの物言いでは大衆の支持を得られないでしょう。

大衆から得た布施を大衆に返すという気持ちを忘れなければ、布施も自然に集まると考えます。清貧の美をもっと考える事が重要でしょう。

―昨年財団創立五十周年を迎えた本会の活動へのご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

日本の仏教は歴史上、宗派が分かれば宗派仏教として発展してきました。各々の宗派が、自分以外の宗派の事を知らなすぎると常々感じています。宗派間の無理解のせいで、必要以上に閉鎖的・排他的になっている傾向があります。そうした惰性での動きが続けていては、仏教の崇高な教えが大衆から離れていくものと考えます。宗派間の相互理解という場の提供を、今後も続けて欲しいと思

ます。

全日本仏教会には、現代仏教の指針になるような方策を検討していただければ、宗派としても非常にありがたいです。

そのためには、行動力を持った人材を各加盟団体から結集する努力を常に続けてゆく必要があるのではないのでしょうか。

（談）

真言律宗総本山 西大寺ホームページ

<http://www.naranet.co.jp/saidaiji/>

理事会・評議員会・参与会開催報告

五月二十八日、理事会・評議員会・参与会がグランドプリンスホテル新高輪にて開催された。

当日の議事は、まず理事（常務理事）の変更について、評議員会・理事会それぞれの審議を受け、承認された。

・理事（常務理事）

退任 服部融宣（高野山真言宗）

就任 庄野光昭（高野山真言宗）

引き続き、平成十九年度事業報告並びに収支決算について、事務局の詳細な説明及び林晋堂監事の監査報告があり、評議員会の協議が行われた。

協議終了後、上杉照延評議員会議長より理事会に対して、全会一致で賛同との報告がなされた上で、理事会の審議が行われ、承認された。

また、理事会・評議員会共通の報告事項として、以下の事項が報告された。

一・事務総局人事の変更について
二十八期事務総局人事について、職員構成が一部変更になった

旨報告された。

二・審議会諮問事項について

総務財政審議会・社会人権審議会・国際交流審議会の三つの審議会それぞれに対する理事長よりの諮問事項について、資料に基づき報告された。委員長・副委員長選出など審議会構成も済ませている旨報告された。

三・財団創立五十周年記念事業の現況について

齋藤明聖総務部会長より、五十周年記念事業の経緯と現況が説明され、加盟団体に対し、より一層の協力が要請された。続いて、世界仏教徒会議日本大会の準備状況及び日程概要について報告され、大会で用いるシンボルマークが紹介された。

四・公益法人制度改革の現況について

長谷川正浩顧問弁護士より、閣議決定された「平成二十年度税制改正の要綱」による社団・財団法人の税制改正案及び公益法人認定法における公益目的事業の定義に

ついて説明された。

加盟団体関係の社団・財団法人の新制度への移行対策については、是非専門家に相談されるよう薦められた。

五・チベット情勢への対応について

チベット情勢についての理事長声明、要請書などの取り組みについて報告された。また、本件については、一般からの電話・手紙、本会ホームページへのアクセス数増加など、反響が大きいたことが報告された。

六・『全仏』誌への広告の募集について

『全仏』誌への広告の募集について報告され、併せて加盟団体の協力をいただきたい旨要請された。

七・各部報告
ミャンマー・サイクロン、中国

・四川地震被災者の支援のため、救援基金の拠出を行ったことについて、それぞれの拠出先及びその取り組み状況、並びに「救援基金」協賛の現況について報告された。

仏教懇話会開催

同日、同ホテル内にて十七時三十分より、仏教懇話会が開催され、衆参両院国会議員ら百二十名余が参加した。

開会にあたり、豊原大成理事長より挨拶。その後、大野玄妙副会長の法話が行われた。

法話の中で大野副会長は、「仏教を基軸として皆がしっかりとした目標を定めて活動することが肝要である」と述べ、為政者は聖徳太子が一四〇〇年前に理想とした平等・平和・安穩の思想を忘れず、国民の為の政治を心がけていくべき、と語った。

その後、西村輝成副会長の発声により乾杯、懇談がなされ和やかな雰囲気の中、閉会となった。



法話する大野玄妙副会長

『大正新脩大藏經』データベース化完成を表彰

理事会・評議員会・参与会終了後、同会場に於いて、『大正新脩大藏經』データベース化完成に對して、大藏經データベース化研究会及び大藏經データベース化支援募金会への感謝状贈呈が行われた。

同会は、膨大な内容である『大正新脩大藏經』をパソコン上で使用できるテキストデータベース化し、インターネット上で公開するという事業を推進した。非常な困難に遭遇しつつ、仏教界・学会・財界等からの支援を受け、完成の運びとなった。

この業績を全一仏教の具現であると称え、豊原大成理事長より大藏經データベース化研究会を代表



高崎直道財団法人仏教学術振興会理事長

して高崎直道財団法人仏教学術振興会理事長と、奈良康明大藏經データベース化支援募金会事務局長に表彰状が手渡された。

奈良康明師は、事業推進の為に莫大な資金が必要であり、仏教界の協力が無ければ事業の完結は到底不可能であったとして、募金会に寄せられた協力と支援に心からの感謝の意を表された。

大正新脩大藏經テキストデータベース

<http://21dzklu-tokyo.ac.jp/SAT/>
大藏經データベース化支援募金会
<http://white.sakura.ne.jp/~sat-shienbokin/>



奈良康明大藏經データベース化支援募金会事務局長

財団創立五十周年記念事業特別協賛金寄付者名

(五月十三日～七月八日)

中村文峰本会副会長 (臨濟宗南禅寺派管長)
椿澤日壽本会副会長 (法華宗陣門流管長)
大野玄妙本会副会長 (聖徳宗管長)
若槻繁隆本会副会長 (群馬県仏教連合会会長)
橋本明禅本会副会長 (岡山県佛教会会長)
豊原大成本会理事長 (浄土真宗本願寺派築地別院輪番)
金藏院・八幡浜市仏教会・乗願寺 岩井義俊
願生寺 高橋弘次・想念寺・華嚴院・専福寺・天性寺
専故院 小野寿恭・小嶋信如・前田恵學
正道法華会 新田正道・西蓮寺・春光院・浄円寺・村上智真
正統寺 鈴木秀一・實相寺・栄福寺・高井隆成
如意輪寺 高麗行真・正福寺 磯山福正・靈雲院
自由民主党衆議院議員 奥野信亮・盤龍寺・高岩寺・桃林寺
トリア仏壇株式会社・善徳寺・善照寺・慈眼寺
民主党衆議院議員 横光克彦・華嚴宗・御府内八十八ヶ所霊場
株式会社 吉運堂・高野山高等学校・横浜清風高等学校
(順不同・敬称略)

【合計 六六一万円】

ご支援ありがとうございました。更なる皆様のご支援・御協力をお待ち申し上げます。

【郵便振替】

口座番号 0013016137600

口座名義 財団法人全日本仏教会

【銀行振込】

三井住友銀行 浜松町支店

口座番号 普通 7082913

口座名義 財団法人全日本仏教会

平和のために提言する世界宗教者会議

～G8北海道・洞爺湖サミットに向けて～

標記会議が七月二日・三日に札幌コンベンションセンターで開催された。主催は(財)世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会。本会からは、松長有慶会長。豊原大成理事長が参加した。また大谷光真浄土真宗本願寺派門主が開会基調講演を英語で述べられ、半田孝淳天台座主が平和への誓いを読み上げられた。

開会全体会議「G8サミット：宗教者の精神的・倫理的責務」では杉谷義純天台宗宗機顧問が議長を務められ、全体会議VI「今後に向けて：平和のために共に行動する世界の宗教者」では安田映胤法相宗薬師寺管長が宗教者の実践の必要性について提言された。

提言書を採択するにあたり「G8に向けて提言するには今後政治とどう関わるのか」「共有される安全保障とは」「G8に提言後の検証の必要性」「宗教者の責務とは」等、活発な意見交換がなされた。

会場には正式参加者、オブザー

バー、国内外報道関係者など約三〇〇名近くが集まった。採択された四項目からなる提言書は大野内閣官房副長官に手渡され、さらに翌日(七月四日)首相官邸へ、日本委員会の代表団が赴き、福田康夫首相に手交した。



大谷光真浄土真宗本願寺派門主の開会基調講演



全体会議

米国学生と交流 仏教英語プログラム(BEP)

今秋の第二十四回世界仏教徒会議の通訳補助と将来の国際交流を担う仏教者育成のため、昨年五月より在京の仏教系大学の協力の下、仏教英語プログラム(BEP)が月二回開催されている。

第二十一回は六月四日に本会議室で、米国・ウエスタンミシガン大学より日本文化研修のため来日したコペール教授以下十名の学生と交流会を開催。一島正真国際交流審議会副委員長の日本仏教の概論講義の後、近隣でバーベキューパーティーを開催し相互理解を深めた。



講義に熱心に耳を傾ける日米双方の参加者

第二十九回日韓・韓日仏教文化交流 交流北海道中央寺大会

日韓・韓日仏教文化交流北海道中央寺大会が六月九日から十三日の日程で開催された。日韓両国関係者約三五〇人がこれに参加した。十日午前中に行われた札幌プリンスホテルでの日韓両国代表による学術講演、午後には中央寺に会場を移し平和祈念法要を厳修した。法要の中で本会副会長の西村輝成師が、松長有慶会長の祝辞を代読した。

今大会は「禅と文化」をメインテーマに基調講演が行われ、日本側からは駒澤大学総長の大谷哲夫師が道元禅師主著の「正法眼蔵」を基に日本の禅文化についてわかりやすく解説された。



松長有慶会長の祝辞を代読する西村輝成副会長

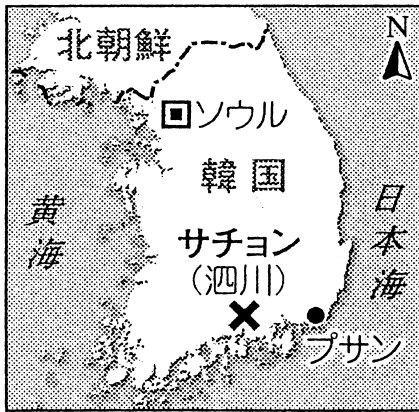
韓日交流―心のかけ橋―①

「帰郷祈念碑」除幕式に参加して

社会人権部 白井 雄仁

本会では日韓両国政府が進めている「朝鮮半島出身の旧民間徴用者等の遺骨返還」に向けて加盟団体の協力の下、多くの寺院でお預かりしているご遺骨を速やかに韓国へ返還できるよう取り組んでいます。

しかし、戦後六十余年が経ち、ご遺骨をお預かりしている寺院の世代交替が進む中、記録の保存や関係者の記憶が薄れ、厚生労働省人道調査室担当者による実地調査は、困難を極めています。



さて、本年三月十一日付、東京

新聞に「韓国に朝鮮人特攻隊員の慰霊碑」建立の記事が掲載された。韓国通の女優黒田福美さんは、沖縄戦の全戦没者の氏名を記した「平和の礎」のような太平洋戦争で戦死した朝鮮人特攻隊員を悼む「帰郷祈念碑」を韓国南部泗川市長の協力により建立することが決まった。黒田さんは、夢の中でみた日本兵として沖縄に散った朝鮮人兵士の冥福を祈るために慰霊碑の建立を思い立ち、せめてその魂が懐かしい故郷の山河へ帰るようにと十七年間にわたり日韓両国間を奔走した。当初、消極的だった現地状況も金守英泗川市長に相談すると三千坪程の市所有の「木槿の花公園」の一面を提供された。祈念碑の制作には、韓国の著名な彫刻家が名乗りを上げ彫刻と寄進を頂くなど、希望に満ちた

取り組みとなり、祈念碑除幕式の旅行も企画された。その日韓交流「帰郷祈念碑」除幕式ツアー（五月九日から十二日）に参加した。五月十日に予定された慰霊碑建立除幕式は、韓日間の和解のための小さな始発点になるはずであったが、予想もしなかった地元団体や一部の市民・社会団体会員・反対派議員など強硬な反対に遭い中止となった。当日は、機動隊が出動する事態となり、ツアー参加者はシユプレヒコールを受け慰霊碑に近づくこともできず、反対派が散会した後、慰霊碑を参拝した。慰霊碑は、五月十三日に治安上維持が難しい等の理由から、泗川市は黒田さんの了承を得ないまま撤去してしまった。

この行事への参加を通じて、改めて歴史認識の違い、韓国と日本の間には未だに深い溝が見え隠れしている現状を実感することとなった。本誌では、九月号・十月号と、慰霊碑建立に携わった東京大学客員教授の 洪鍾必 教授と、除

幕式主催の黒田福美さんにそれぞれの立場からご寄稿を頂き、両国の温度差を再認識し、問題解決の糸口を探るためのきっかけにしたかと思っている。



撤去される前の「帰郷祈念碑」

※本コーナーでは、三回に渡って日韓交流「帰郷祈念碑」についての記事を掲載していきます。次回は東京大学客員教授の洪鍾必（ホン・ジョンピル）教授にご寄稿頂きます。

と、慰霊碑建立に携わった東京大学客員教授の 洪鍾必 教授と、除

暑中お見舞い申し上げます

曹洞宗宗務庁

管 長 福山 諱 法
 宗務総長 測 英 徳
 参 議 森 嶺 雄
 参 議 藏 山 光 堂
 教学部長 乙 川 暎 元
 総務部長 葦 原 正 憲
 伝道部長 河 村 松 雄
 出版部長 齋 藤 裕 道
 財政部長 山 路 純 正
 人事部長 須 川 法 昭
 教化部長 宮 下 陽 祐

東京都港区芝二一五一二
 〒105-8544 ○三(三四五四)五四一
<http://www.sotozen-net.or.jp>

浄土真宗本願寺派

総 長 不二川 公 勝
 総 務 出口 湛 龍
 総 務 桑 羽 隆 慈
 総 務 宮 崎 憲 之
 総 務 藤 下 恒 庸
 総 務 園 城 義 孝
 本廟局長 藤 岡 崇 信
 宗門長期振興計画
 推進対策室長 仲 尾 孝 誠
 浄土大石五山總
 中央法要事務所長 那 須 野 淨 英
 教学伝道研究
 センター所長 上 山 大 峻
 本願寺宗務部
 センター所長 山 内 教 嶺
 総局公室長 藤 田 誓 之
 会 行 事 今 小 路 覚 真

京都市下京区堀川通花屋町下ル
 〒600-8501 ○七五(三七)五一八一
 F A X ○七五(三五)一一二一一

真宗大谷派

宗務総長 熊 谷 宗 惠
 参 務 石 川 正 生
 参 務 杉 浦 義 孝
 参 務 里 雄 康 意
 参 務 和 田 正 之
 参 務 松 本 好 行

京都市下京区烏丸通七条上ル
 常葉町七五四
 〒600-8505 ○七五(三七)九一八一代表

浄土宗

浄土門主 坪 井 俊 映
 宗務総長 稲 岡 康 純
 総務局長 小 栗 賢 亮
 教学局長 岡 本 宣 丈
 財務局長 倉 井 正 則
 社会国際局長
 社会福祉推
 進事務局長 田 中 信 道
 文化局長 赤 平 法 導
 総長公室長 川 中 光 教
 人権同和室長 浅 野 義 光
 宿務大石
 大遠忌事務局長 光 成 範 道
 職 員 一 同

浄土宗宗務庁
 京都市東山区林下町四〇〇一八
 〒605-0062 ○七五(五二)二二〇〇代
 F A X ○七五(五三)五一〇〇五
 東京都港区芝公園四一七一四
 〒105-0011 ○三(三四三三)三三五一代
 F A X ○三(三四三四)〇七四四
<http://www.jodo.or.jp>

日蓮宗

宗門運動
 立正安国・お題目結縁
 運動を実施してござ
 います。

管 長 酒 井 日 慈

宗務総長 小 松 淨 慎

宗務役職員一同

東京都大田区池上一一三二一五
 〒146-8544 ○三(三七五)七一八一
 F A X ○三(三七五)七一八六
<http://www.nichiren.or.jp/>

暑中お見舞い申し上げます

総本山仁和寺
真言宗御室派
御室流華道総司庁

管門
長跡 南 揚道

執行
宗務総長 立部 祐道

執行
総務部長 沖田 定信

執行
教学部長 清水 實道

執行
財務部長 西 仁海

京都市右京区御室大内三三
〒616-8092 〇七五(四六一)一一五五
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇
<http://www.ninnai.or.jp>
E-mail office@ninnai.or.jp

真言宗醍醐派宗務本庁
総本山醍醐寺寺務所

座管
主長 麻生 文雄

執行
宗務総長 仲田 順和

執行
総務部長 岡田 祐雄

執行
教学部長 田村 照晃

執行
財務部長 壁瀬 宥雅

京都市伏見区醍醐東大路町二二
〒601-1325 〇七五(五七二)〇〇〇二
FAX 〇七五(五七一)〇一〇一
<http://www.daijogu.jp>
携帯電話でも御覧頂けます。



融通念佛宗
総本山大念佛寺

法管
主長 倍巖 良舜

寺務
宗務総長 吉村 暲英

法務
教学部長 中江 慈光

庶務
部長 岡田 眞澄

執行
会計部長 北川 全宏

大阪市平野区平野上町
〒547-0045 〇六(六七九)〇〇二六
一七二六

天台眞盛宗宗務所
総本山西教寺

管
長 西村 罔紹

執行
宗務総長 武田 圓寵

執行
教学部長 三津 堯賢

執行
財務部長 藤上 良英

執行
社会部長 砂原 圓凝

執行
庶務部長 色井 秀宰

滋賀県大津市坂本五一三一一
〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

黄檗宗大本山萬福寺
黄檗宗宗務本庁

管
長 岡田 亘令

執行
宗務総長 林 晋堂

執行
庶務部長 住谷 瓜頂

執行
教学部長 中川 眞禎

執行
財務部長 大鹿 義弘

京都府宇治市五ヶ庄三番割三四
〒611-0011 〇七七(四三三)三九〇〇
FAX 〇七七(四三三)六〇八八

暑中お見舞い申し上げます

財団法人 埼玉県佛教会

会長 藤田 得三

副会長 萩野 映明

同 木村 盛雄

専務理事 深谷 雅良

常務理事 穂山 教雄

同 加藤 玄静

同 倉持 秀裕

同 杉村 良哉

事務局長 金子 嘉広

さいたま市浦和区高砂 四一三一一八
〒330-0063 ○四八(八六)二二三八
FAX ○四八(八六四)六六四九
<http://saijutunev/>

新潟県仏教会

会長 中村 啓識

全仏評議員 春日 浩三

副会長 桑原 大宗

同 上原 教仁

同 春日 教雄

同 坂部 祐仁

事務局長 小林 秀徳

長岡市上田町二二五 徳聖寺内
〒940-0074 ○二五八(三三)一五八六

大阪府仏教会

会長 増田 貞圓
(真宗大谷派 圓勝寺)

副会長 北村 日照
(日蓮宗 櫛笥寺)

同 森田 俊朗
(和宗 中之院)

同 辻本 戒雲
(浄土真宗本願寺派 常照寺)

同 村山 廣甫
(曹洞宗 東光寺)

事務局長 井桁 雄弘
(浄土宗 大圓寺)

事務局長次長 二上 寛弘
(真言宗 釈迦院)

事務局
大阪市住吉区墨江三十七一八 大圓寺内
〒558-0043 ○六(六六七)三二五九
FAX ○六(六六七)五〇〇四

社団法人 全日本仏教婦人連盟

名誉会長 鷹司 誓玉

会長 大谷 貴代子

副会長 稲山 靈芳

同 大賀 美都子

同 末廣 久美

理事長 島田 喜久子

事務局長 林 恵智子

東京都渋谷区千駄ヶ谷 四一五一一一二〇五
〒151-0051 ○三(五七七)〇六七七
FAX ○三(五七七)〇六七七
<http://jbfwjfp>
E-mail: info@jbfwjfp

金峯山修験本宗 総本山金峯山寺

管長 五條 順教

宗務総長 田中 利典
執行長

奈良県吉野郡吉野町吉野山
〒639-3115 ○七四六(三三)八三七一
FAX ○四七六(三三)四五六三

孝道山 本仏殿

第二世統理 岡野 正貫

副統理 岡野 鄰子

第三世統理 岡野 正純

横浜市神奈川区鳥越三八
〒221-0064 ○四五(四三)一一〇一

暑中お見舞い申し上げます

<p>宗教法人 念法眞教</p> <p>総本山 金剛寺</p> <p>大阪市鶴見区緑三十四一三二 〒538-0054 〇六(六九二)二二〇一 http://www.nenpoushinkyoku.jp/</p>	<p>顕本法華宗</p> <p>管長 中村日玄</p> <p>宗務総長 藤崎広学</p> <p>京都市左京区岩倉幡枝町九十一 〒606-0015 〇七五(七九二)七一七一 FAX 〇七五(七九二)七二六七</p>	<p>東京都仏教連合会</p> <p>会長 井上瑞雄</p> <p>理事長 山田一眞</p> <p>事務局長 新倉典生</p> <p>東京都足立区梅田一二十六一十 善立寺内 〒123-0851 〇三(三八八六)一三六七 FAX 〇三(三八八六)八二五二</p>	<p>愛媛県仏教会</p> <p>会長 齋藤友巖</p> <p>副会長 片井祥雲</p> <p>同 二宮泰慶</p> <p>四国中央市川之江町一七七五 宅善寺内 愛媛県佛教会事務局 〒799-0101 〇八九六(五八)三三〇〇</p>	<p>真言三寶宗 大本山清澄寺</p> <p>法管主長 坂本光謙</p> <p>宗務長 岡田康秀</p> <p>執行長 有井良隨</p> <p>鉄斎美術館 館長 村越英明</p> <p>宝塚市米谷字清シ一番地 〒665-0837 〇七七七(八六六)六六四一 FAX 〇七七七(八六六)六六六〇 http://www.kiyoshikojin.or.jp</p>	<p>本門佛立宗 本山宥清寺</p> <p>講 有 小山日誠</p> <p>宗務総長 佐藤日鳳</p> <p>本山宥清寺 〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入 滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一 TEL 〇七五(四六三)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一 本門佛立宗 宗務本庁 〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る 東堅町一〇番地 TEL 〇七五(四六二)一六六(代) FAX 〇七五(四六四)五九九九 URL http://www.honmon-butsumyushu.or.jp/</p>	<p>愛知県仏教会</p> <p>会長 吉田教行</p> <p>副会長 田畑修身</p> <p>同 伊藤正導</p> <p>同 岩木涼山</p> <p>名古屋市昭和区高峯町四八 普蔵寺内 〒466-0811 〇五二(八三三)九九七二〇</p>	<p>財団法人 国際仏教興隆協会</p> <p>名誉会長 塩川正十郎</p> <p>理事長 安田暎胤</p> <p>事務総長 正本乗光</p> <p>役員 一同</p> <p>東京都目黒区中目黒五十二四一五三 〒153-0061 〇三(三七一一)七六〇八 FAX 〇三(三七一一)七六七三 http://homepage2.nifty.com/nip-pouji/ E-mail: hba@nifty.com</p>	<p>聖観音宗 浅草寺</p> <p>貫首 清水谷孝尚</p> <p>東京都台東区浅草二一三一 〒111-0032 〇三(三八四二)〇一八一 FAX 〇三(三八四五)六九三三</p>	<p>新義真言宗宗務所</p> <p>総本山 根来寺</p> <p>和歌山県岩出市根来二二八六 総本山 根来寺内 〒649-6202 〇七三六(六二二)一四四 FAX 〇七三六(六二二)一〇四四</p>	<p>真言宗中山寺派 大本山中山寺</p> <p>宝塚市中山寺二丁目十一一 〒665-8588 〇七七七(八七七)〇〇二四 FAX 〇七七七(八七七)九八七七 http://www.nakayamadera.or.jp</p>
---	--	--	---	--	---	---	--	---	---	---

暑中お見舞い申し上げます

<p>宗務総長 後藤 憲雄</p> <p>臨済宗南禅寺派</p> <p>京都市左京区南禅寺福地町八六 〒606-8435 〇七五(七七)〇三六五 F A X 〇七五(七七)二六九八九 http://www.nanzen.net E-mail: info@nanzen.net</p>	<p>宗務長 高木 貞歡</p> <p>時宗宗務所</p> <p>神奈川県藤沢市西富一―八一― 遊行寺内 〒251-0001 〇四六六(二三)七二七六</p>	<p>法管 主長 岩田 文有</p> <p>西山浄土宗 総本山光明寺</p> <p>京都府長岡京市粟生西条ノ内二六― 〒617-0811 〇七五(九五)〇〇〇二 http://www.konyo-ji.or.jp</p> <p>内局 一同</p>
<p>管門 長跡 下泉 恵尚</p> <p>大本山大覚寺 真言宗大覚寺派宗務庁</p> <p>京都市右京区嵯峨大沢町四 〒616-8411 〇七五(八七)〇〇七― F A X 〇七五(八八)二四九二―</p>	<p>管 主 安田 映胤</p> <p>法相宗</p> <p>奈良市西ノ京町四百五十七番地 薬師寺 〒630-8563 〇七四二(三三)六〇〇―</p>	<p>宗務総長 橋本 尚信</p> <p>臨済宗円覚寺派</p> <p>鎌倉市山ノ内四〇九 〒247-8503 〇四六七(二二)〇四七八 http://www.engakuji.or.jp/</p> <p>大本山 円覚寺</p>
<p>会 長 伊藤 文元</p> <p>静岡県仏教会</p> <p>静岡県浜松市中区下池川町二七―一 天林寺 〒430-0905 〇五三(四七)六二二六</p>	<p>会 長 藤井 純恵</p> <p>北海道仏教会連盟</p> <p>札幌市中央区北二条西十九丁目一― 浄土真宗本願寺派北海道教区教務所内 〒060-0003 〇一一(六一)九六二三</p>	<p>宗務総長 橋本 尚信</p> <p>東寺真言宗</p> <p>京都市南区九条町一 東寺真言宗宗務庁 〒601-8473 〇七五(六七)三七一七 F A X 〇七五(六六)六八五六</p>
<p>社団法人 日本仏教保育協会</p> <p>東京都港区芝公園四―七―四 照明会館内 〒105-0011 〇三(三四三)二七四七五 F A X 〇三(三四三)二一五一九</p>	<p>滋賀県仏教会事務局 滋賀県大津市坂本五―一三―一 総本山西教寺内 〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三 F A X 〇七七(五七八)三四一八</p> <p>滋賀県仏教会</p>	<p>岐阜県仏教会</p> <p>岐阜市西野町三一― 岐阜西別院在会所西側入口 〒500-8882 〇五八(二六六)七八〇三 F A X 〇五八(二六六)七八〇三 http://bukkyo.gifu.net/</p>
<p>天台寺門宗 和宗 妙見宗 真言宗善通寺派 真言宗山階派 真言宗泉涌寺派 真言宗国分寺派 真言宗須磨寺派 信貴山真言宗 真言宗犬鳴派 浄土宗西山禅林寺派 浄土宗西山深草派 真宗高田派 真宗仏光寺派 真宗興正派 真宗木辺派 臨済宗建長寺派 臨済宗相国寺派 臨済宗東福寺派 法華宗本門流 法華宗陣門流 法華宗真門流 本門法華宗</p>	<p>天台寺門宗 和宗 妙見宗 真言宗善通寺派 真言宗山階派 真言宗泉涌寺派 真言宗国分寺派 真言宗須磨寺派 信貴山真言宗 真言宗犬鳴派 浄土宗西山禅林寺派 浄土宗西山深草派 真宗高田派 真宗仏光寺派 真宗興正派 真宗木辺派 臨済宗建長寺派 臨済宗相国寺派 臨済宗東福寺派 法華宗本門流 法華宗陣門流 法華宗真門流 本門法華宗</p>	<p>理事長 中山 静磨</p> <p>日本佛教鑽仰会</p> <p>東京都板橋区舟渡四―十五―一 〒174-0041 〇三(三九六七)三二八八</p>

暑中お見舞い申し上げます

聖徳宗
 華嚴宗
 真言律宗
 律宗
 青森県仏教会
 岩手県仏教会
 福島県仏教会
 群馬県仏教連合会
 栃木県仏教会
 茨城県仏教会
 千葉県仏教会
 神奈川県仏教会
 石川県仏教会
 福井県仏教会
 山梨県仏教会
 長野県仏教会
 京都仏教会
 京都府仏教連合会
 兵庫県仏教会
 和歌山県仏教会
 島根県仏教会
 岡山県仏教会
 鳥取県仏教連合会
 香川県仏教会
 (社)徳島県仏教会
 高知県仏教会
 福岡県仏教連合会
 長崎県仏教連合会
 宮崎県仏教連合会
 沖縄県仏教会
 (財)仏教伝道協会
 東京ブディストクラブ
 全日本仏教青年会
 仏教情報センター

会長

松長 有慶

副会長

清水谷孝尚
 中村 文峰
 東條 仁哲
 椿澤 日壽
 大野 玄妙
 若槻 繁隆
 橋本 明禪
 西村 輝成

理事長

豊原 大成

常務理事

渕 英徳
 不二川公勝
 石川 正生
 小林 正道
 小松 淨慎
 庄野 光昭
 細川 景一
 濱中 光礼
 岡部 快圓
 川田 聖成

理事

森田 俊朗
 岡野 正純
 桶屋 良祐
 立部 祐道
 山下 佛宏
 山田 一真

本間 孝康

桑原 大司
 加納 博司
 伊藤 文元
 増田 貞圓
 服部 文昭
 松濤 弘道
 安原 晃
 林 晋堂
 萩野 映明
 吉田 教行

監事

評議員

乙川 暎元
 桑羽 隆慈
 関崎 幸孝
 田中 信道
 伊東 隆司
 岡部 兼海
 松山 英照
 谷 晃昭
 上杉 照延
 粕谷 利通
 武田 圓龍
 座間 光寛
 守山 雄順
 山口 真祐
 壁瀬 宥雅
 吉井 惠貫
 岡田 康秀
 東條 仁靖
 杉浦 秀祐
 長岡 正明

安田 義樹

高木 貞歡
 松浦 浩道
 佐分 宗順
 青木 謙整
 原井 慈鳳
 佐古 弘文
 藤崎 広学
 村上 太胤
 古谷 正覚
 佐伯 龍幸
 藤井 純恵
 大井 亮
 小保方教円
 青柳 雅明
 矢坂 誠徳
 家森 宏善
 玉久 圭澄
 小角 隆幸
 一月 正人
 吉田 海心
 善國 乘憲
 島田 喜久
 五條 良知

参与

田中 利典
 黒髪 寛延
 石堂 恵眼
 鬼頭 誠英
 大谷 義博
 中江 慈光
 今杉 康道
 高井 正俊
 竹内 正道

加藤 乘安

筒井 寛昭
 中村 昌道
 都筑 玄澄
 山口 祐哉
 高岸 義昭
 長澤 香静
 川島 謙宗
 山田 本然
 津村 泰雅
 高山 久照
 逸見 道郎
 安孫子虔悦

総務財政審議会

山下 昭文
 尾井 貴童
 富樫 珠徳
 倉井 正則
 張田 珠潮
 森 寛勝
 松山 英照
 谷 晃昭
 芙蓉 良英
 五十嵐賢二
 大谷 義博
 矢吹 慈英
 新倉 典生
 近藤 真道
 林 恵智子
 長谷川正浩
 宮川 宏生
 安田 松慶

社会人権審議会

坂田 徹心
 和治 教文
 譽田 和人
 浅野 義光
 田澤 元泰
 深 真樹
 神代 紹文
 源田 俊昭
 小宮 一雄
 小島 恵真
 健代 和央
 本多 静芳
 吉田 道興
 望月 哲也
 長谷川正浩
 小林 正道
 枝木 美香
 守屋 友江
 山下 昭文
 桐林 三巳
 禿 信敬
 戸松 義晴
 持田 貫信
 村上 保壽
 渡邊 宗徹
 一島 正真
 岡野 忠正
 粕谷 利通
 田中 光成
 坂本 観泰
 奈良 康明
 松濤 弘道

国際交流審議会

暑中お見舞い申し上げます

宗教教育推進委員会

小笠原隆元
成田 孝英
大谷 哲夫
北川 前肇
塩入 法道
ケネス・タナカ
渡辺 章悟
川橋 範子

委員長

豊原 大成

副委員長

淵 英徳

財団創立50周年記念 事業実行委員会

杉本 栄次
上田 則夫
山本 昭弘
虎山 義秀
高山 久照

委員

松濤 弘道
安原 晃
林 晋堂
萩野 映明
吉田 教行

広報委員会

松尾 徹裕
富永 慎秀
齋藤 明聖
赤平 法導
太田 順祥
岡部 兼海
並木 優記
福井 邦彦

不二川公勝
石川 正生
小林 正道
小松 淨慎
庄野 光昭
細川 景一
濱中 光礼
岡部 快圓
川田 聖成
森田 俊朗
岡野 正純
桶屋 良祐
立部 祐道
山下 悌宏
山田 一眞
本間 孝康
桑原 大宗
加納 博司
伊藤 文元
増田 貞圓
服部 文昭

山下 昭文
富永 慎秀
齋藤 明聖
田中 信道
張田 珠潮
森 寛勝
松山 英照
谷 晃昭
高麗 行真
柏谷 利通
前阪 良憲
田中 利典
福家 俊彦
坂本 峰徳
渡部 高男
福田 収治
岡田 祐雄
久我 儼昭
君野 諱賢
青木 眞暁
窓岡 弘道
高木 貞歡
松浦 浩道
朝比奈惠温
青木 謙整
牧野 秀成
加藤 乘安
村上 太胤

平岡 昇修
大井 亮
寺内 泰俊
稲木 義友
都筑 玄澄
新倉 典生
上原 教仁
青柳 雅明
山口 祐哉
桑原 持
吉田 教行
黒川 英正
長澤 香静
川島 謙宗
井桁 雄弘
矢坂 誠徳
疋田 哲寿
萩岡 裕明
藤原 宥然
津村 泰雅
一月 正人
吉田 海心
林 恵智子
高島 孝範
藤城 尚
小林 昭彦
正本 乗光
佐藤 功岳
坂本 観泰
小川 亮昌
荒川 正憲
井澤 孝一
石田 祐寛
一島 正眞
上田 則夫

大谷 博通
小笠原隆元
鎌田 良昭
川島 宏之
木内 隆志
桑原 恒久
五條 良知
小峰 立丸
小山 栄雅
眞田 有快
杉谷 義純
田中 光成
塚田 章憲
杜多 徳雄
戸松 義晴
中 正宣
西村 輝成
西尾 貫之
西岡 知圓
野生司祐宏
長谷川義彰
籀本 宏昌
服部 光順
日比野郁皓
深澤 照生
藤木 雅雄
北條 祐英
町田 法博
松永 然道
守山 雄順
安本 利正
矢萩 信顕
吉水 智栄
和田 大雅

顧問弁護士

長谷川正浩

事務総局

事務総長

深澤 信善

総務部
奈良 慈徹

入西 智彦
小宮 加奈

財務部
江口 智流

社会人権部
飯島 尚之

広報文化部
白井 雄仁

国際部
西野 良嘉

北折 真一
酒井 仁成

関西支局局长
山添 法道

局長一同

平成19年度 特別会計「救援基金」収支計算書

平成20年3月31日現在

【収入の部】

1. 前年度繰越金		26,435,463円
2. 救援募金（能登半島地震）	1件	300,000円
3. 救援募金（新潟県中越沖地震）	7件	2,922,600円
4. 救援募金（指定なし）	29件	2,523,680円
5. 利息		114,528円
収入合計		32,296,271円

【支出の部】

1. 能登半島地震被災地支援金	石川県災害対策本部	1,000,000円
2. 能登半島地震見舞金	石川県仏教会	100,000円
3. 新潟県中越沖地震見舞金	新潟県仏教会	300,000円
4. 新潟県中越沖地震被災地支援金	仏教NGOネットワーク	1,000,000円
5. 新潟県中越沖地震被災地支援金	新潟県中越沖地震災害対策本部	2,000,000円
6. バングラディッシュサイクロン被災者支援金	仏教NGOネットワーク	1,000,000円
7. 事業活動費		135,147円
支出合計		5,535,147円

次年度繰越金

金 26,761,124円

特別会計 平成十九年度

「救援基金」収支報告

全日本仏教会では、二〇〇三年十二月二十六日発生のアラブ南東部大地震を契機に、湾岸戦争およびバングラディッシュ難民救済の協賛の残金をもとに、恒常的かつ緊急の対応を図るべく「全日本仏教会救援基金」を常設いたしました。

以後、新潟県中越地震・インド洋スマトラ沖地震、パキスタン北部地震、ジャワ島中部地震、能登半島地震等に対し迅速かつ的確な支援を行うことができました。

本年、ミャンマーサイクロン、中国・四川大地震、岩手・宮城内陸地震により多数の方が被災し、今もなお言い知れぬ不安な毎日を経験されておられます。

皆様からお寄せいただいた多くの浄財は、別記の支援団体等へ寄託させていただいております。ここに平成十九年度の収支報告をさせていただきます。

ミャンマーサイクロン及び中国・四川大地震被災者支援への指定寄付を募集しておりますが、指定寄付の受付は八月末日を締切とさせていただきます。指定のない、一般救援基金に対する募集は継続致します。

各位に対し衷心より御礼申し上げますとともに、仏教界挙げての人道的活動の為、ひきつづきご協賛のほど宜しくお願い申し上げます。

※救援金の送付先

【郵便振替】

口座番号 00110191704834

口座名義 全日本仏教会救援基金

【銀行振込】

中央三井信託銀行 本店営業部

口座番号 0973031

口座名義 財団法人全日本仏教会

「救援基金」寄付者一覧

（五月十二日～六月九日）

順不同 敬称略

西有寺 横山敏明・池田行信
東京ブレイストクラブ

時宗・融通念佛宗・法華宗陣門流

（社）全日本仏教婦人連盟

（財）日本仏教鑽仰会

愛媛県仏教会・静岡県仏教会

月影寺・戸谷静恵・法華宗真門流

（社）徳島県仏教会

金峯山修験本宗・真言宗大覚寺派

愛知県仏教会・華嚴宗 東大寺

群馬県仏教連合会・香川県仏教会

日蓮宗・聖観音宗・念法真教

高野山真言宗 松長有慶

長崎県仏教連合会 一月正入

仏教懇話会・真言宗須磨寺派

白井雄仁・（財）埼玉県佛教会

本門佛立宗・神奈川県仏教会

宇和島仏教六和会・川越市仏教会

信貴山真言宗・八幡浜市仏教会

（社）日本仏教保育協会

沖縄県仏教会

合計 九、九七〇、七六〇円

他、多くの方々のご協力を頂いております。次号にて引きつづき寄付者を掲載させていただきます。

事務総局録事

五月(十一〜三十一日)

- 十二日 ▼ 宗教法人審議会出席
- 十三日 ▼ 監査会
- ▼ 宏池会と語る会出席
- 十四日 ▼ 中国大使館へ義援金手交
- ▼ 深谷隆司衆議院議員と面談
- 十五日 ▼ 第三十二回正力松太郎賞式典・授賞式出席
- 十六日 ▼ ICS打合せ
- 十九日 ▼ シンポジウム事前打ち合せ
- ▼ 国際仏教興隆協会監査会出席
- ▼ 鈴木政二議員パーティー出席
- 二十日 ▼ 局内会議
- 二十一日 ▼ 仏教英語プログラム
- 二十二日 ▼ 国際交流審議会
- ▼ 宗教教育推進委員会
- ▼ BNN企画委員会出席
- ▼ 庭野平和賞授賞式出席
- ▼ 無料法律相談室
- ▼ 二〇〇八年度部落解放・人権政策確立要求第一次中央集会出现
- 二十三日 ▼ 第二回コーディネーター会議
- ▼ 勧募部会
- ▼ 社会人権審議会
- ▼ ICS打合せ
- ▼ 総務財政審議会
- ▼ 全葬連懇親会出席
- 二十七日 ▼ 国際仏教興隆協会理事会

- ▼ 下谷仏教会総会出席
- 二十八日 ▼ 理事会・評議員会・参与会・仏教懇話会(於 グランドプリンスホテル新高輪)
- 二十九日 ▼ 浄土宗事務庁訪問
- ▼ 台東区長・浅草警察署訪問
- 三十日 ▼ 三千院「御懺法講」参列
- ▼ 浅草寺訪問
- 三十一日 ▼ 野田大燈師 仏教伝道文化賞祝賀会出席
- 六月(一〜三十日)
- 一日 ▼ 台湾駐日代表夫妻送別会出席(於 ホテルオークラ)
- 二日 ▼ 鳥取県仏教連合会疋田会長来局
- 三日 ▼ 真言律宗取材
- 四日 ▼ 局内会議
- ▼ 仏教英語プログラム
- 五日 ▼ 天皇即位二十周年奉祝委員会設立総会 松長有慶会長出席(於 赤坂プリンスホテル)
- ▼ 広報委員会
- 六日 ▼ 総務・WFB大会合同部会(於 増上寺会館)
- 九日 ▼ 日韓・韓日仏教文化交流北海道中央寺大会(至13日)
- 十日 ▼ 豊原理事長へ事務打合せ
- ▼ 民主党仏教議員連盟(於 参議院会館)

- 十一日 ▼ 記念誌編纂部会
- ▼ 同宗連研修会参加(於 神社本庁 十二日迄)
- ▼ 浄土宗名誉門主中村康隆大僧正表葬儀参列
- 十二日 ▼ BNN運営総会委員会出席
- ▼ 日本宗教連盟幹事会出席(於 神社本庁)
- ▼ 無料法律相談室
- 十三日 ▼ 東京都仏教連合会総会出席(於 築地本願寺)
- 十四日 ▼ 協賛依頼 南禅寺訪問
- 十六日 ▼ 協賛依頼 東大寺・薬師寺・法隆寺訪問
- 十七日 ▼ 局内会議
- 十八日 ▼ 浅草仏教会総会出席
- ▼ 第五十二回東京矯正管区管内教誨師研修東京大会出席
- ▼ 仏教英語プログラム
- ▼ BNN研修セミナー出席
- ▼ 宗派を超えてチベットの平和を祈念する会出席(於 増上寺)
- 十九日 ▼ SOTO禅インターナショナルシンポジウム出席
- 二十日 ▼ 岡山県佛教会取材
- ▼ プーケット日本人会・大野副会長来局
- ▼ 衛藤征士郎朝食会出席
- 二十三日 ▼ 社会人権審議会出席(社会部会)
- 二十五日 ▼ 日本宗教連盟理事会・幹事会・監事会出席(於 神社本庁)
- ▼ UNHCR来局
- ▼ 豊原理事長打合せ



アユタヤ時代の仏頭(十七世紀)

祈りの世界 ④ タイ

タイではどこに行っても黄衣をまとった僧侶たちの姿をよく見かけ、タイを象徴する風物詩となっている。お寺には一般の僧侶の他にサマネーンと呼ぶ少年の修行僧がいる。彼らの一日は早朝の托鉢に始まり午前中は仏法、午後は一般の中学や高校の教科を学びながら、お寺の戒律に従って修行生活が続いている。修行僧達はお寺の学校を卒業しお寺に残る人もいるが、多くは還俗して一般社会で働き、人々に尊敬の念を持って迎えられている。

- ▼ 神奈川県仏教会総会出席
- ▼ 無料法律相談室
- ▼ 栃木県仏教会 大会実行委員会出席
- ▼ 協賛依頼 唐招提寺・西大寺・興福寺訪問
- 二十六日 ▼ IMADR-JC 第十九回総会出席
- ▼ 協賛依頼 西村輝成副会長訪問
- 二十七日 ▼ 宗教教育推進委員会 正副委員長との打ち合せ
- 三十日 ▼ 総務財政審議会
- ▼ 中村文峰副会長に面談

第24回世界仏教徒会議日本大会ロゴマーク決定



本会のシンボルである法輪を中心に、開催期日や同時に開催される第15回世界仏教青年会議、第7回世界仏教大会議の名称などを配置。今後、記念品、配布物などに広く使われます。去る5月28日の理事会において発表されました。

日本UNHCR協会より、本会「救援基金」寄託に対し感謝状進呈



先日ミャンマーで発生したサイクロン被害の救援のため、全日本仏教会「救援基金」よりUNHCR（国際連合難民高等弁務官事務所）に100万円を寄託致しました。

これに対し、6月25日、日本UNHCR協会より感謝状が進呈されました。また、支援体制の現況・近況の報告が行われました。

前号の『全仏』誌で募集させて頂きました、ミャンマーサイクロン・中国四川省地震に関する本会「救援基金」への募金には、沢山の方々の協力を頂いており、UNHCRをはじめ各機関への追加の支援を検討いたしております。

今後も、みなさまの温かい浄財をお寄せ頂きたくご協力申し上げます。



日本UNHCR協会参事谷口朋子氏より感謝状を受け取る豊原大成理事長